

熊本県奥球磨地域

森林の公的管理と球磨スギ・ヒノキの

高付加価値化による地域林業再興のチャレンジ

1 奥球磨地域の概要

日本三急流の一つ熊本県球磨川の上流域に位置する湯前町と水上村は、奥球磨と呼ばれ、標高1,721メートルの市房山を背にして、林業を基幹産業の一つとする山間地域です。約2万1千haの森林を生産基盤として盛んに保育事業や素材生産事業を行い、丸太生産量は約13万m<sup>3</sup>/年を誇ります。人口



管理された森林（湯前町町有林）



市房山の大杉（水上村）



林業・木材産業の再興

地域の関係者で実現する将来像

- 「行政」と「意欲と能力のある林業経営体」が担う森林の管理、経営体制の確立
- 森林から得られる利益の山元還元の最大化（大径化する球磨スギ・ヒノキの高付加価値化）

奥球磨からのチャレンジ

- 【対策1】公的関与による持続可能な資源供給に向けた環境整備
- 【対策2】大径材の需要促進と地域内における「トータル林業化」
- 【対策3】「もり」を支える人材育成





6千人程の自治体規模の実績としては全国的にも最高水準の林業隆盛地であるといえます。

## 2 奥球磨みらいのもり 創造協議会の取組

この豊かな森林資源を継続的に維持しながら最大限に活用することが、雇用の創出などを通じた地域の活性化につながり、過疎化傾向にある郷土の未来創造に多大に寄与すると考えます。

このため、地域内の林業・木材産業関係者、都市部消費地の流通業者、地元自治体と共に「奥球磨みらいのもり創造協議会」を立ち上げ、一気通貫の木材の供給体制を構築しました。平成30年度には国の林業成長産業化地域創出モデル事業への選定を受けることとなりました。

地域内では、旺盛な素材生産がありながら、伐採後には着実に再造林が行われ、高い再造林率を誇ります。100%の再造林を目指し、また林業の担い手の育成や労働環境の改善等にも取り組んでいます。さらに、木材製品の付加価値を高め、消費者などからの評価の向上と、利益を山元に還元することで山林所有者の林業経営への意欲の喚起を目標としています。

## 3 地域材の高付加価値化へ向けた 取組

地域内では素材生産は活発に行われているものの、



大径丸太の熱処理施設

近年地域内の製材業は衰退傾向にあり、多くの原木（丸太）が、地域外に出荷されています。森林資源を地域活性化につなげ、素材生産された原木の地域内製材割合を増やしていくことが重要です。そのためには需要者ニーズや社会的ニーズを正確に理解し、それらに対応した製材品を生産することが必要です。

そこで、製材品の付加価値の向上を図るため、各種製品の製造方法や供給体制等を改善しました。その結果、現在までにJAS機械等級区分構造用製材の供給や木材乾燥法の改善による新規製造方法を開発することができました。

地域内の製材工場がJAS認証を取得し、県内外の公共建築などへJAS製材を供給しています。一般的には高価なJAS材ですが、木材乾燥法の改善等により効率化を図り、現実的な価格での供給ができるようになりました。

また、九州南部で顕在化している大径化問題に対

## 4 終わりに

応するため、「丸太状熱処理併用複合乾燥法を用いた芯去り製材法」を開発し、優れた品質の美しい化粧用材を供給しています。この製法の技術と生産された各種商品が、ウッドデザイン賞をはじめとする数々の賞をいただき、多方面から評価されることになりました。これらの木材製品は2020オリンピック・パラリンピック東京大会の関連施設や公共建築物、有名企業の社屋や住宅メーカーで利用されています。

令和2年7月の豪雨では、球磨川が氾濫して多大な浸水被害が発生し、65名の方々が犠牲となりました。球磨川上流の奥球磨地域では、中流域や下流域と比較して浸水被害は少なかったものの、令和3年の年初時点では鉄道の復旧も目処が立たず、山地においても随所で流された林道などの復旧未完了箇所が多数あります。幸い林業関係者などの懸命な努力の結果、本事業における素材供給には支障が出ていませんが、この事業が早期復興への一助となるべく鋭意努めています。



氾濫した球磨川と浸水した球磨村(西日本新聞社撮影)